

～1946年、ここで旧石器が発見された～

# 赤城山南麓の旧石器

*Late Paleolithic In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.*



約3.5万年前

群馬の旧石器の移り変わり

# 赤城山南麓は旧石器遺跡の宝庫!!

A Gold Mine Of Late Paleolithic Site In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.

赤城山は、群馬県のほぼ中央に位置し、かつては富士山型をした2500m級のコニーデ式火山でした。榛名山、妙義山とともに上毛三山の一つに数えられ、日本百名山、日本百景の一つにも選ばれています。中央のカルデラの周囲を1200~1800mの峰々が取り囲んでおり、その外側に広く緩やかな裾野が形成されています。この裾野には日本の旧石器時代の原点である岩宿遺跡をはじめとしてたくさんの遺跡があり、全国的にも旧石器遺跡の宝庫です。

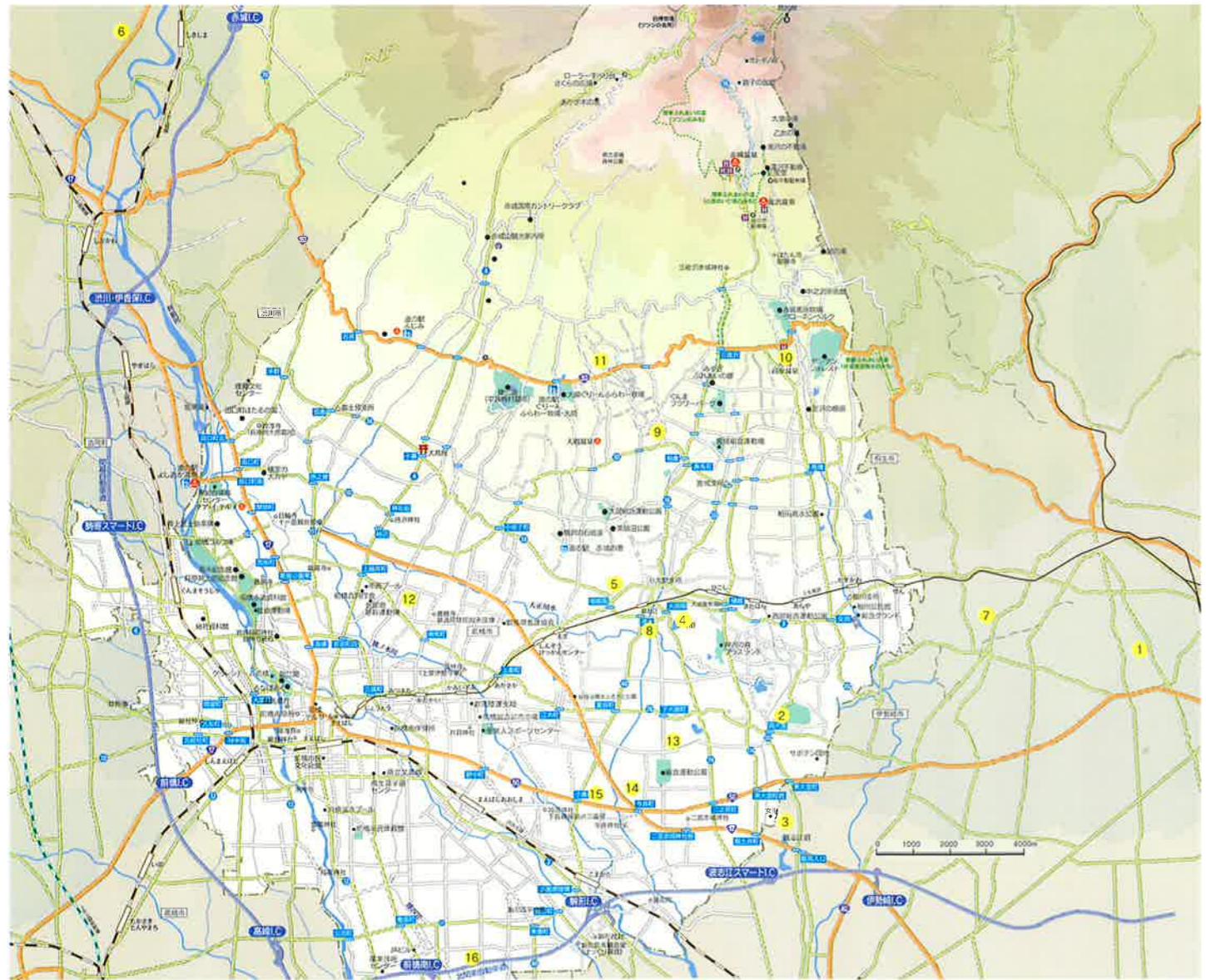


図2 赤城山南麓の旧石器遺跡

## 掲載遺跡一覧表

No.	遺跡名	時期	所在地	資料所在地
1	岩宿遺跡	1期	みどり市笠懸町阿左美1781	相澤忠洋記念館・岩宿博物館・明治大学博物館
2	内堀遺跡	1期	前橋市西大室町2510	前橋市文化財保護課
3	下触牛伏遺跡	1期	伊勢崎市下触町238	群馬県埋蔵文化財センター
4	熊の穴II遺跡	2期	前橋市神沢の森1-3	前橋市文化財保護課
5	堀越甲真木B遺跡	2期	前橋市堀越町530-2	前橋市文化財保護課
6	上白井伊豆遺跡	3期	渋川市上白井町2886-2	群馬県埋蔵文化財センター
7	武井遺跡	4期	桐生市新里町武井896-1	桐生市文化財保護課・明治大学博物館
8	三ツ屋遺跡	4期	前橋市茂木町532	相澤忠洋記念館

No.	遺跡名	時期	所在地	資料所在地
9	市之関前田遺跡	5期	前橋市市之関町795	前橋市文化財保護課
10	楕形遺跡	5期	前橋市苗ヶ島町1433-1	相澤忠洋記念館
11	柏倉芳見沢遺跡	5期	前橋市柏倉町2119	前橋市文化財保護課
12	鳥取福蔵寺遺跡	5期	前橋市鳥取町613-1	前橋市文化財保護課
13	頭無遺跡	5期	前橋市鶴が谷町42-6	前橋市文化財保護課
14	荒砥北三木堂遺跡	縄文	前橋市今井町306	群馬県埋蔵文化財センター
15	小島田八日市遺跡	縄文	前橋市小島田町526-1	群馬県埋蔵文化財センター
16	徳丸仲田遺跡	縄文	前橋市徳丸町171	群馬県埋蔵文化財センター

# 赤城山南麓の石器の移り変わり

Chronology Of Late Paleolithic Site In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.

赤城山南麓の石器群の変遷は大きく5つの時期に分けられます。浅間火山や榛名火山から噴出し厚く堆積した火山灰層と石器の形から、変遷をたどることができます。1~3期はナイフ形石器、4期は石槍である槍先形尖頭器、5期は細石刃を使い、先祖から引き継いた伝統を守り自然と共生する暮らしを送っていました。

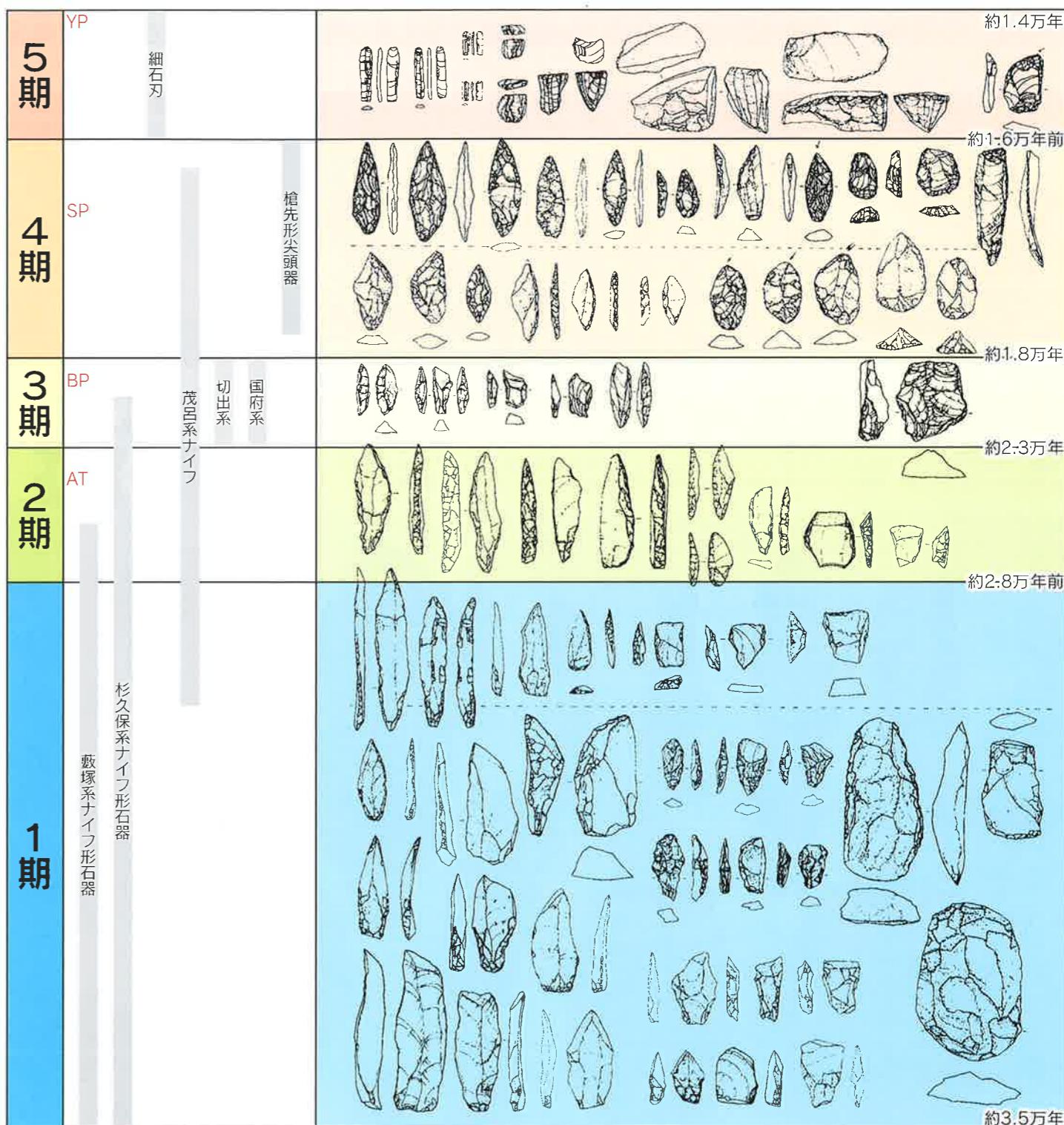


図3 群馬の旧石器の移り変わり  
(岩宿博物館1994より)

【火山灰の説明】YP=浅間黄色火山灰層約1.4万年前 SP=浅間白系火山灰層1.6-1.7万年前 BP=浅間褐色火山灰層約1.8-2万年前 AT=始良丹沢火山灰層2.4-2.5万年前

せんごあか  
戦後の明るいニュース・岩宿遺跡の発見  
The Good News, After World War II, The Discovery Of Iwajuku Site.

1946年、相澤忠洋さんが赤城山南麓で発見した石器は、日本列島に「旧石器時代」という人類最古の時代があったことを実証しました。明治大学考古学研究室に届けられた一つの石器から発掘調査が始まりました。現在、岩宿遺跡Ⅰ石器文化と呼ばれた石器群は、3.5万年前とされる1期の石器です。この岩宿の調査で1期の特徴ともいえる局部磨製石斧や大型の細長いナイフ形石器が発見されました。昭和24年9月20日全国紙に掲載された「旧石器の握柶」の記事は、戦後の苦しいとき日本中に勇気を与えました。



図4 岩宿遺跡の最初の発掘（1949年）



図5 岩宿遺跡の関東口一層

岩宿遺跡 みどり市笠懸町阿左美1781の稲荷山と琴平山の標高150mの小丘鞍部の東斜面上に立地する。1946年に相澤忠洋氏によって石器が採集された。1949年明治大学考古学研究室による発掘調査によって、日本に旧石器文化が存在することが実証された。調査で1期、3期、4期の3枚の石器文化層の存在が確かめられたことから、その後の編年研究上で重要な指針となった。また、石器の出土状態が一定のまとまりを持つことから、後にブロックと呼ばれ遺跡の成り立ちを研究する基本となつた。石器は1968年に国重要文化財、遺跡は1979年に国史跡。石器は明治大学博物館、相澤忠洋記念館、岩宿博物館に保管。



図6 みどり市岩宿遺跡Ⅰ石器文化の石器 重要文化財

(左下長さ10.0cm)

しんはつけん きゅうせつき  
新発見・旧石器のむら「環状ブロック群」  
A News Discovery, Paleolithic Settlements, Circular Lithic Concentrations.

1期には「環状ブロック群」と呼ばれる直径10m~50mにも及ぶ円形の石器分布が知られています。円形内には、広場とそれを囲んだイエウが建ち並ぶ集落の跡と考えられています。国内で最初に発見され、最大級の規模を持つのが伊勢崎市下触牛伏遺跡です。

赤城山南麓は、全国的にみても1期の遺跡が多い地域といえます。大室公園にある前橋市内堀遺跡でも1期の石器がみつかりました。黒曜石製のすんぐりしたナイフ形石器を使用する集団と黒色頁岩製の細長いナイフ形石器を使用する二つの集団が暮らしていました。

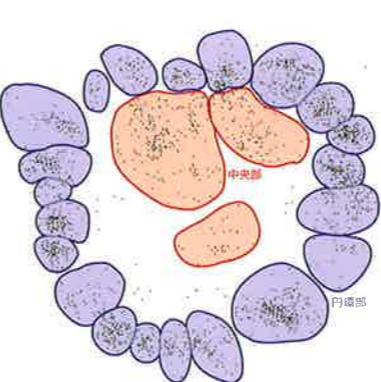


図7 伊勢崎市下触牛伏遺跡のムラ  
(環状ブロック群：岩崎ほか1986より)



図8 大室公園民家園の南に拡がる  
前橋市内堀遺跡（北から）

内堀遺跡 前橋市西大室町2510の標高127mの南に向いた舌状に張り出した台地上に立地し、大室公園民家園造成工事に伴う調査で発見。AT層下の暗色帯中から、大きく東西2群に分かれて石器が出土。西群は黒曜石292点、重量1.7kgを用い、東群は黒色安山岩や黒色頁岩を用い同時期に形成された。局部磨製石斧1、打製石斧1、ナイフ20、台形様石器10など314点が出土。石器は前橋市教委に保管。



図9 大室公園民家園敷地から見つかった前橋市内堀遺跡の石器

(左上長さ7.3cm)

# 西南日本と東北日本のナイフ形石器

Backed Blades Derived From Southwest Japan And Northeast Japan.

1期から3期までは、さかんにナイフ形石器が使われます。東北日本と西南日本ではナイフ形石器の違いがみられます。北海道や東北、関東、中部の東北日本では大型で細長い杉久保系ナイフ形石器と小型ですんぐりした藪塚系ナイフ形石器、近畿以西の西南日本では黒曜石の藪塚系ナイフ形石器が使用されました。

2期になると杉久保系ナイフ形石器が減少し、茂呂系ナイフ形石器、3期には切出系ナイフ形石器へ変わります。また、3期には西南日本で国府系ナイフ形石器が使われますが、東北日本の遺跡でもみつかっています。



図10 5種類のナイフ形石器（岩宿博物館2011より）

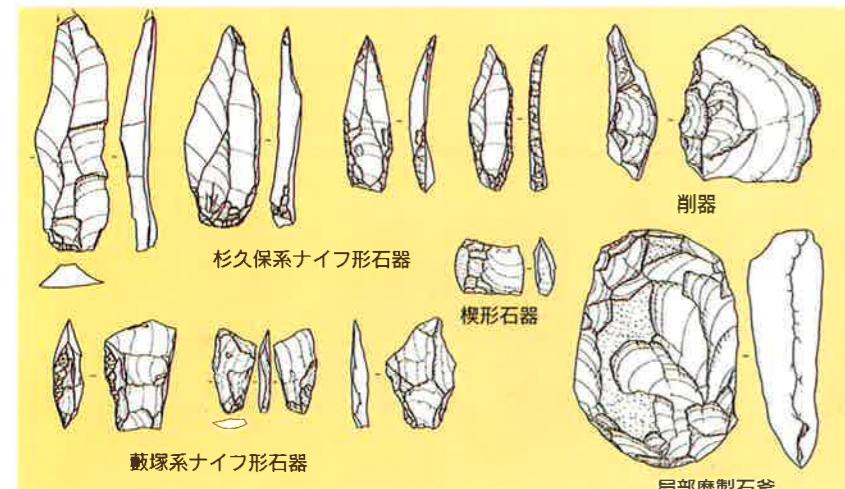


図11 東北日本のナイフ形石器文化の石器（岩宿博物館2011より）



図12 西南日本と東北日本のナイフ形石器（岩宿博物館2011より）

# 小型化するナイフ形石器

Miniaturized Backed Blades.

2期の後半では、ややすんぐりした茂呂系ナイフ形石器が中心となります。多くは、長野県産の良質な黒曜石を使った小型の石器です。また、1期に多数製作された石斧も使われなくなります。その他の石器としては、皮なめし用の円形の刃をもつ搔器や抉りを持つ削器があります。ナイフ形石器を作るための技術では、石刃と呼ばれる整った剥片を使います。吾妻川流域に分布する黒色頁岩や沼田市武尊山や佐久市八風山産出の黒色安山岩といった石材は、南関東に運ばれます。関東地方全体の中で群馬が石材の供給地となっていたことも、この時期の特徴といえます。



図13 前橋市熊の穴II遺跡の石器

(左下長さ5.6cm)



図14 前橋市堀越甲真木B遺跡の石器

(右上長さ7.0cm)

せいなんにほん き こうけい がたせつき  
西南日本から来た国府系ナイフ形石器  
"Kou Backed Blade" Derived From Southwest Japan.

3期の特色は、西南日本方面からの石器作りの影響が強かったことです。ナイフ形石器は幅広い剥片に斜めの刃をつけた切出系ナイフ形石器が多く発見されます。また、石核から刺し身を切るように横に長い剥片をとり、それを仕上げた西南日本に分布する国府系ナイフ形石器が、渋川市上白井西伊熊遺跡で発見されました。3期は遺跡の減少があげられますが、度重なる浅間山の噴火活動によって生活環境が悪化したためと考えられます。



図15 みどり市岩宿遺跡II石器文化の石器 重要文化財

岩宿遺跡 みどり市笠懸町阿左美 1781の稲荷山と琴平山の標高150mの小丘鞍部の東斜面上に立地する。1946年に相澤忠洋氏によって石器が採集された。1949年明治大学考古学研究室による発掘調査によって、日本に旧石器文化が存在することが実証された。調査で1期、3期、4期の3枚の石器文化層の存在が確かめられたことから、その後の編年研究上で重要な指針となった。また、石器の出土状態が一定のまとまりを持つことから、後にブロックと呼ばれる遺跡の成り立ちを研究する基本となつた。石器は1968年に国重要文化財、遺跡は1979年に国史跡。石器は明治大学博物館、相澤忠洋記念館、岩宿博物館に保管。



(右下長さ5.5cm)



図16 渋川市上白井西伊熊遺跡の石器

上白井西伊熊遺跡 渋川市上白井町 2886-2にある遺跡。国道17号脇沢バイパス改築工事に伴う発掘調査で発見。渋川市上白井町の利根川に接した標高225mの台地から5595点の石器が出土。西南日本で発達した「瀬戸内技術」によるもので、国府系ナイフ形石器35点以上、素材の翼状剥片120点以上が出土した。石器は県埋文センターに保管。



(左上長さ5.0cm)

たけい いせき きゅうしょく  
武井遺跡の給食センター・大型礫群  
Barbecue Over Large Sized Open Fires At Takei Site. Large Concentrations Of Burnt Pebbles.

4期は石器数が20万点を超える武井遺跡が有名で、全国でも屈指の大型遺跡です。槍のほか、ナイフ形石器や石刃を使った削器、親指状の搔器や各種の彫器があります。また、バーベキューに使用したと考えられる礫群があります。20個程度の小型礫群が一般的ですが、武井遺跡では、600個の礫を使った直径1.5mを超える大型礫群があります。



図17 桐生市武井遺跡峯岸地区の大型礫群



図18 桐生市武井遺跡の器 (左上長さ9.4cm)

武井遺跡 桐生市新里町武井896-1に所在し、赤城山南麓地域に連なる標高158mの独立丘陵上に立地する。1953年に明治大学によって1期と4期の2枚の石器文化層が検出された。その後、ミツバ新里工場建設による発掘を旧新里村教育委員会が実施。1期の約1000点の石器、4期の槍先形尖頭器石器群は20万点を超え、40基以上の礫群を発見。4期の石材は、チャート、黒曜石、黒色安山岩、黒色頁岩、硬質頁岩などバラエティーに富む。遺跡の中心部9419m<sup>2</sup>が整備され公開中。石器は明治大学博物館・桐生市教委に保管。



図19 桐生市武井遺跡のいろいろな石材の槍先形尖頭器

(右上長さ3.7cm)

せつ き おおがたりゅうつう  
石器大型流通センター・武井遺跡  
A Large Trade Center Of Projectile Points, Takei Site.

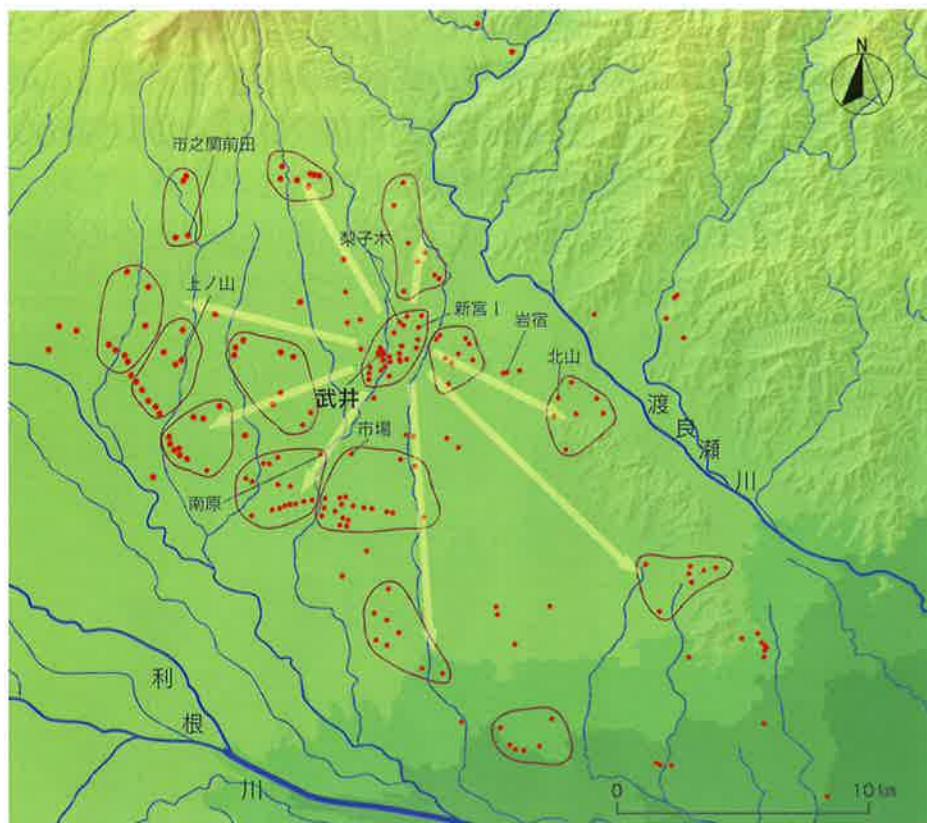


図20 武井遺跡と赤城山南麓の遺跡群（岩宿博物館2011より）



(右下長さ7.3cm)



三ツ屋遺跡 前橋市茂木町532に所在。広い台地の東側の谷に面した標高135mに立地。昭和25年の調査で槍先形尖頭器3、ナイフ形石器3、搔器3、削器3を含む68点の石器が出土。そのほとんどが長野県産の気泡を含む黒曜石製。石器は相澤忠洋記念に保管。

図21 前橋市三ツ屋遺跡の石器

武井遺跡で製作された槍先形尖頭器は、チャート、黒曜石、黒色安山岩、黒色頁岩、硬質頁岩、凝灰岩、鉄石英、水晶、瑪瑙、玉髓などさまざまな石材が使われています。産地から離れた武井遺跡に材料や半製品が集められ、製品に仕上げて各地に運ばれる流通システムがこの時代にすでにあったのかもしれません。

三ツ屋遺跡は岩宿遺跡の調査の翌年にあたる昭和25年に調査され、出土石器のほとんどが黒曜石製品でした。調査面積が狭かったこともありますが、武井遺跡の多種多様な石材と好対照をなしています。石器は長野県産の黒曜石を使っています。

なんばく  
南北ルートで入ってきた細石刃技法  
Many Micro Blade Technique Derived From Southern Route And Northern Route.

5期は、カッターナイフの刃のような形をした小さな細石刃と呼ばれる石器を骨や木軸に埋め込んで槍の先などとして盛んに使用しました。国内では大きく北ルートと南ルートで細石刃技法が入ってきます。北から入ったものは、湧別技法や幌加技法と呼ばれ、南から入ったものは矢出川技法や西海技法と呼ばれています。これらの技法の故郷は遠くシベリアのバイカル湖周辺といわれています。



図22 北ルートと南ルートから入った細石刃技法



いちのせきえだいせき 前橋市市之関町795にあり、大穴川と芳見沢川の合流点右岸の標高300mの台地に立地。1987年に、旧宮城村教委が発掘。調査によって約1万8000年前の層序から矢出川技法による南方系の細石刃石器群を発見。細石刃やナイフは長野県和田岬産の黒曜石、搔器や削器などは黒色安山岩や黒色頁岩など在地の石材が使用され総数1291点。細石器石器群の中では古い段階に当たる。石器は前橋市教委で保管。



図23 前橋市市之関前田遺跡の石器 (右上長さ2.6cm)



図24 前橋市市之関前田遺跡の礫器 (上長さ13.8cm)

## かつての船底形石器は細石刃核

Before It Was Called A Ship Bottom Shaped Tool, But Now It Is Called 'Horoka Micro Blade Core'.

前橋市苗ヶ島町にある楕形遺跡で出土した石器は、細石刃が発見されなかったことから「船底形石器」と認定されました。昭和48年の2次調査で、細石刃が多数出土したため船底形石器は細石刃をつくる細石刃核であることがわかりました。楕形遺跡や柏倉芳見沢遺跡から発見された石器群は北ルートで入ってきた北方系細石刃石器群の仲間である幌加技法で作られ、地元産の黒色頁岩を使用しています。



図25 前橋市楕形遺跡の石器

(右下長さ11.2cm)

**楕形遺跡** 前橋市苗ヶ島町1433-1に位置し、粕川と荒砥川に挟まれた標高415mの赤城山南麓の台地上に立地。1951年に道路工事中に石器が発見され、1951年と1973年の2回、相澤忠洋氏が発掘。1973年の調査では、幌加技法による細石刃核19、細石刃39、削器16、搔器1など379点の細石刃石器群が、YPとBP間のローム層中から出土。旧石器研究の学史上、重要な遺跡である。石器は相澤忠洋記念館に保管。

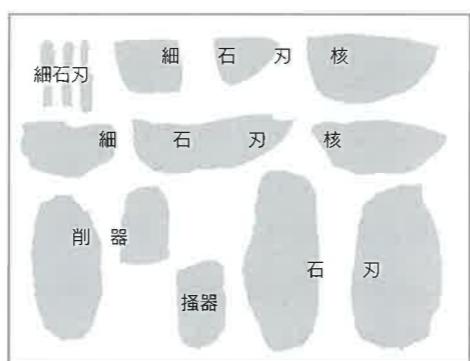
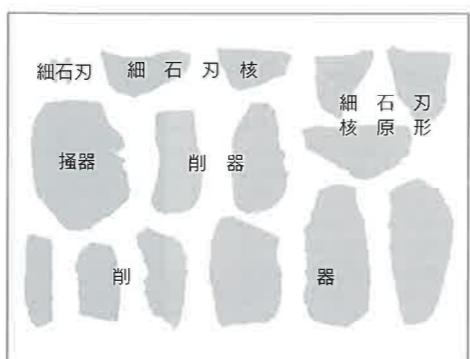


図26 前橋市柏倉芳見沢遺跡の石器

(右下長さ12.9cm)

**柏倉芳見沢遺跡** 前橋市柏倉町2119にあり、芳見沢川右岸の標高380mの台地に立地する。石器はYP直下から出土した。楕形遺跡と同様に黒色頁岩を主に用い、幌加技法による細石刃核や細石刃、削器など130点以上出土した。石器は前橋市教委に保管。



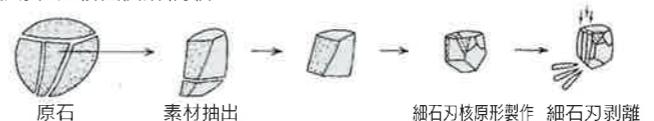
## 特色ある3つの細石刃技法

Three Characteristic Micro Blade Technique.

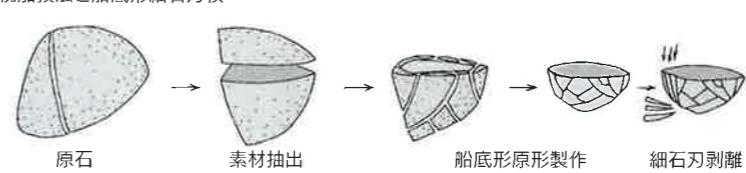
細石刃技法のうち、南ルートの矢出川技法で製作された稜柱形細石刃核を持つ石器群は、市之関前田遺跡で見つかっており黒曜石を使っています。北ルートの幌加技法で作られた船底形細石刃核を持つ石器群には楕形遺跡や柏倉芳見沢遺跡があり、大形石刃を用いた削器や搔器を伴い、細石刃を含めた多くの石器に黒色頁岩などの地元の石材を使用しています。

同じく北ルートで入る湧別技法で作られた楔形細石刃核をもつ石器群には頭無遺跡や鳥取福蔵寺遺跡があります。細石刃核や細石刃の他、削器、搔器、彫器などの石器は東北地方から持ち込まれた硬質頁岩で製作されています。彫器は、荒屋型彫器と呼ばれる石器で、シベリアやアラスカで発見されており、東アジアから北アメリカにおける細石刃文化の共通性を示す資料です。

①矢出川技法と稜柱形細石刃核



②幌加技法と船底形細石刃核



③湧別技法と楔形細石刃核

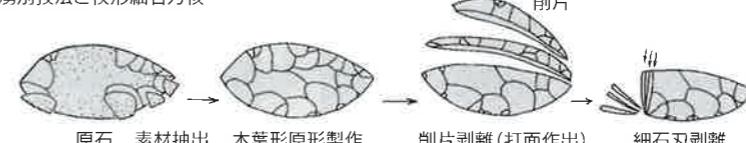


図27 3種類の細石刃技法

(堤 隆2004による)



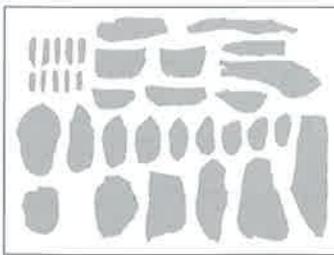
図28 細石刃の槍

(長さ17.3cm)



図29 前橋市鳥取福蔵寺遺跡の石器

(右下長さ11.8cm)



**鳥取福蔵寺遺跡** 前橋市鳥取町613-1にあり、赤城山南麓の南に延びる標高130mの低台地の先端に立地する。ほ場整備工事による発掘で発見された。5期の細石刃文化の石器群で石材には東北地方の硬質頁岩がほとんどを占める。湧別技法による細石刃核5、スキー状スパール5、細石刃99、荒屋型彫器11、彫器削片21、礫器11などの361点が出土。石器は前橋市教委に保管。

## かんたいへいよう かくさん 環太平洋に拡散するモンゴロイド The Spread Of The Mongoloid Race In The Circum-Pan-Pacific.

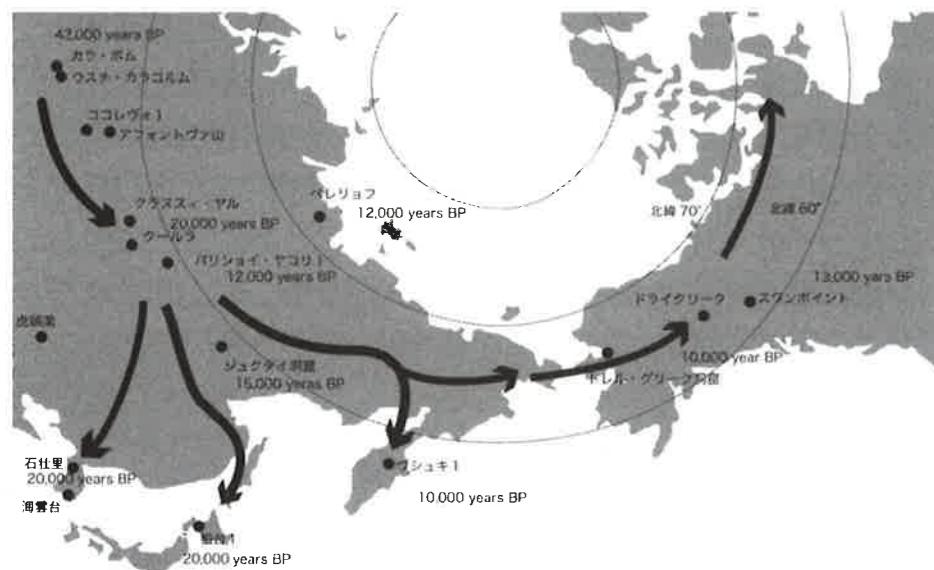


図30 シベリアからアラスカへ拡散する細石刃技法

(加藤博文2008より)



図31 前橋市頭無遺跡の荒屋型彫器

(右下長さ5.9cm)



図32 前橋市頭無遺跡の細石刃核と関連用品

(左下長さ5.4cm)

モンゴロイド（黄色人種）は太平洋を取り囲む東アジア、東南アジア、南北アメリカ、オセアニアなど世界で最も広範囲に広がる、日本人、朝鮮人、中国人、イヌイット、インディアン等の人々です。モンゴロイドが太平洋周辺に拡散したのが、この細石刃文化の時代です。この時代に勇敢なモンゴロイドはシベリアを旅立ち、樺太から北海道へ、さらにベーリング海峡をわたりアラスカへ、さらにロッキー山脈を南下し、南米のチリまで到達しました。



図33 頭無遺跡の彫器削片

(右下長さ2.8cm)



図34 頭無遺跡の細石刃

(左上長さ3.7cm)

**頭無遺跡** 前橋市鶴が谷町42-6付近に位置し、赤城山南麓の南に延びる標高108mの丘陵性台地上に立地。城南住宅団地造成による発掘で発見。旧石器時代の3枚の文化層が認められ、1期、3期、5期の石器が出土。5期は石器425点が出土。剥離技術による細石刃核1、細石刃核の関連用品5、細石刃124、荒屋型彫器9、彫器削片15、削器9、搔器2など425点が出土。石材は東北地方の硬質頁岩が8割を占める。黒曜石13点は箱根系産。石器は前橋市教委に保管。

## きゅうせつ き じ だい 旧石器時代から縄文時代へ From Paleolithic Era To The Jomon Era.

旧石器時代が終わりを告げると土器を使う縄文時代となります。本州の最古の土器は、石斧や石槍が伴いますが、九州では細石刃が伴います。このように旧石器時代から縄文時代への移り変わりには、多くの謎が残されています。赤城山南麓では小島田八日市遺跡、荒砥北三木堂遺跡から土器や石斧、石槍が発見されています。荒砥北三木堂遺跡では、細石刃や細石刃核とも考えられる資料が発見されており、九州とのつながりを考えるうえで貴重な出土品です。また、全体の形が復元できた隆起線文土器が徳丸町の仲田遺跡で発見されました。



図35 前橋市荒砥北三木堂遺跡の石器と土器

(左下長さ8.2cm)

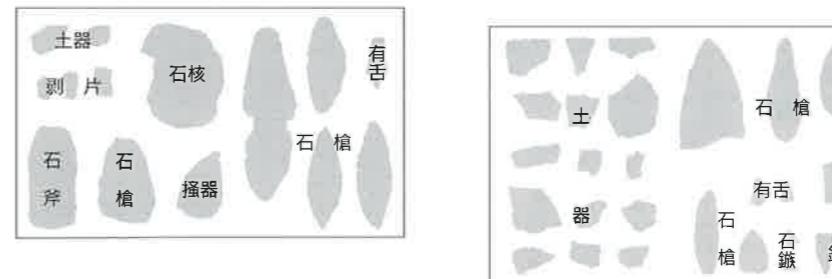


図36 前橋市徳丸仲田遺跡の隆起線文土器

(高さ29cm)

**徳丸仲田遺跡** 前橋市徳丸171にあり、北関東自動車道の建設工事による発掘で発見。前橋台地にある藤川右岸の標高74mの微高地から隆起線文土器1個体、有舌尖頭器2、木葉尖頭器1、削器1などが出土。遺物は県埋文センターに保管。

**荒砥北三木堂遺跡** 前橋市今井町306にあり、荒砥川左岸に広がる標高88mの比較的平坦な台地上に立地。5期から縄文時代にかけての遺跡。槍先形尖頭器45のほか打製石斧1、有舌尖頭器1や削器9、搔器1、無文土器2など含む2824点が出土。槍先形尖頭器製作跡に特徴的な未成品や破損品も多量に出土。槍先形尖頭器は、縄文時代に位置づけられるが、「槌状剥離」に似た剥離手法は細石刃石器群の伝統を残し複雑な様相を示す。出土遺物は県埋文センターに保管。

**小島田八日市遺跡** 前橋市小島田町526-1にあり、旧利根川を望む標高87mの台地先端部に立地する。国道50号に接続する県道の拡幅工事で発見された。隆起線文土器114点、局部磨製石斧1点、有舌尖頭器2点、石槍7点が出土。遺物は県埋文センターに保管。



図37 前橋市小島田八日市遺跡の石器と隆起線文土器

(右上長さ7.2cm)

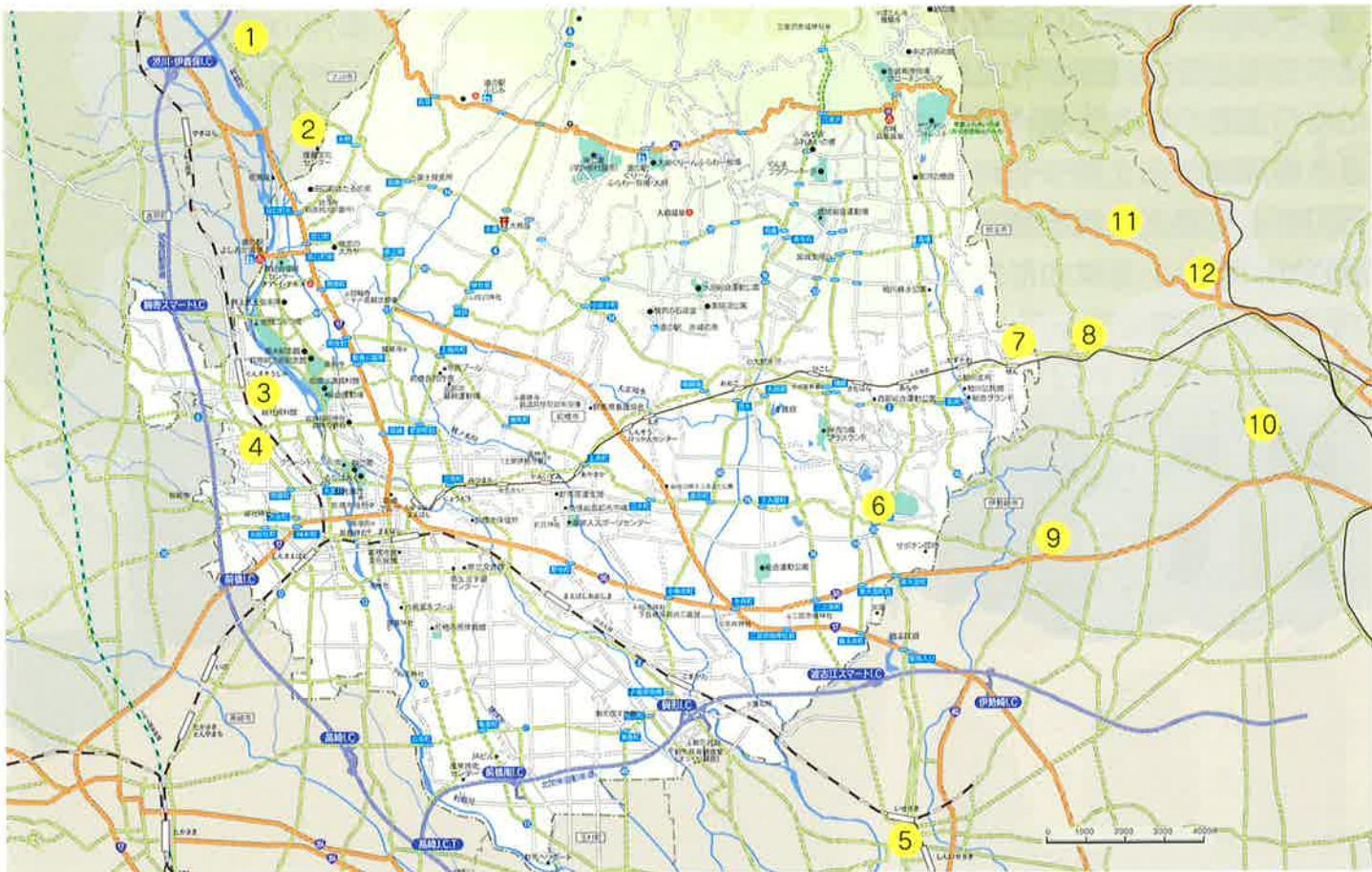


図38 前橋市小島田八日市遺跡の局磨製石斧

(長さ17cm)

# あかぎやまなんろく てんじしせつ あんない 赤城山南麓の展示施設のご案内

Information For Exhibition Facilities In The Southern Foothills Of Mt.Akagi.



展示施設一覧表

No	名称	所在地	電話	開館時間	休館日
1	渋川市北橘歴史資料館	377-0062 渋川市北橘町真壁246-1	0279-52-4094	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
2	群馬県埋蔵文化財センター発掘情報館	377-8555 渋川市北橘町下箱田784-2	0279-52-2513	9:00~17:00	土曜日、祝日の翌日、年末年始
3	前橋市総社資料館	371-0853 前橋市総社町総社1584-1			平成28年10月オープン予定
4	前橋市文化財保護課総社ギャラリー	371-0853 前橋市総社町3-11-4	027-280-6511	9:00~17:00	土・日曜日、祝日、年末年始
5	相川考古館	372-0046 伊勢崎市三光町6-10	0270-25-0082	9:00~16:30	月曜日、年末年始
6	大室はにわ館	379-2104 前橋市西大室町2510	027-268-0439	9:00~16:00	4~11月…月~水、祝日開館 12~3月…月~金、祝日開館、年末年始
7	前橋市柏川歴史民俗資料館	371-0204 前橋市柏川町膳48-1	027-230-6388	10:00~16:00	月・火曜日(祝日は開館)、年末年始
8	桐生市新里郷土資料館	376-0123 桐生市新里町武井693	0277-74-3881	9:00~17:00	月曜日、祝日、年末年始
9	赤堀歴史民俗資料館	379-2204 伊勢崎市西久保2-98	0270-63-0030	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
10	岩宿博物館	379-2311 みどり市笠懸町阿佐美1790-1	0277-76-1701	9:30~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
11	相澤忠洋記念館	376-0131 桐生市新里町奥沢537	0277-74-3342	10:00~17:00	月曜日、祝日の翌日
12	みどり市大間々博物館 コノドント館	376-0101 みどり市大間々町大間々1030	0277-73-4123	9:00~17:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
番外	明治大学博物館	101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1	03-3296-4448	9:30~17:00	8/10~16、12/26~1/7 ※8月の土・日曜に臨時休館 ※上記期間を除く日、祝・大学の定める休日

写真提供 相澤忠洋記念館=図21・25

岩宿博物館=図1・4・6・9・14~19・25・26・28・29・35~38

桐生市教育委員会=図17~19

群馬県教育委員会=図35~38

明治大学博物館=図4・6・15

参考文献 講談社 1988 赤城山麓の旧石器

上毛新聞社 1989 悠久への出発・岩宿遺跡40年の軌跡

岩宿博物館 1993 第5回企画展 群馬の岩宿時代

みやま文庫175 2004 群馬の旧石器

新泉社 2006 赤城山麓の三万年前のムラ・下触牛伏遺跡

東洋書店 2008 シベリアを旅した人類

岩宿博物館 2011 岩宿時代 常設展示解説図録

岩宿博物館 2010 第50回企画展 群馬の岩宿時代パート2

青木書店 2010 講座日本の考古学 旧石器時代(上)

岩宿博物館 2011 第52回企画展 岩宿時代の東西交流

岩宿博物館 2012 第54回企画展 人が動く、時代も動く

岩宿博物館 2013 第56回企画展 巨大遺跡の謎を追う

新泉社 2014 旧石器時代の発見・岩宿遺跡

~1946年、ここで旧石器が発見された~

## 赤城山南麓の旧石器

Late Paleolithic In The Southern Foothills Of Mt.Akagi



The Oomuro Park

平成28年2月29日発行

発行：前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4

電話027-280-6511

Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp